

夢窓幼稚園通信 第25号

2020年 7月 21日

近年「なつ」はとてもとても暑い暑さで「過しづらいですが、同時にまた、世界の果て異郷にまで「飛んでいけやうに思える魅惑に満ちた季節でもあります。

「なつまつり」を、今年もご家族の皆さまと共有できましたことを心より感謝申し上げます。
止むを得ない状況の中での「はじめての試み...クラス毎の開催...みんなで集うことはできず、少し寂しかったかもしれませんが、いつもに比べてゆっくりのんびり過ごすことができました。
日毎に天の川の星の数が増え、「いのちの木」のメッセージの葉がゆたかに繁っていったり...と、一日いちにちが「目に見えるところでも見えないことでもつながって、おまつりがゆめの世界のようにふくらみいくのを体験することができたと思います。
ご不便もいろいろおかけしたことでしょう。沢山のご配慮とご協力をいただき5日間のまつりを終えることができました。
ありがとうございました。

この夏は(梅雨は)長雨で...プールを洗い準備OK!水着を持ってきて「さあこれからプールだ!」と思いきや、結局入れず、ようやく終業前日水着に着替えて水浴びと足つけの、ささやかな水遊びとなりました。

それでも子どもたちは、とてもとてもうれしそうでした。

冒険でもいつものことでも...いつでも「はじめてのこととしてわくわくできるからひとつひとつの今が輝くのでしょ!」
本番のなつを迎えるときの心得かもしれません!

いよいよ、明日から「なつやすみ」となります。

子どもたちにとっては、なつやすみを、新しい世界の扉を開くような気持ちで迎えるのでしょうか。もう少し大きくなってなつやすみ体験を重ねると間違いなくそんな気持ちになるのでしょうか、それでも回りのお兄さんたちや街の空気が「なつやすみ迎えモード」になると年長児だったかつての私は確かに「なつの扉を開けて飛び込んでいったのだ」と思います。幼稚園の時からかぞえると60回近くのかなつやすみを迎えることにはなりますが、いつでもわくわくです。

どこかで前にも引用したかもしれませんが、レイ・ブラッドベリの『たんぼほのお酒』の冒頭が浮かんできます。

静かな朝だ。町はまだ闇におおわれて、やすらかにベッドを
眠っている。夏の気配が天気になぎり、風の感触もふさ
ふしく、世界は、深く、ゆくりと、暖かな呼吸をしていた。走り
あがって、窓から外をのぞいてごらんよ。いま、ほんとうに
自由で、生きている時間がはじまるのだから。

太陽が昇りはじめた。
少年は腕を組んで、魔法使いらしい微笑を浮かべた。
すうだとも、ほぐが叫ぶよ、だれもが跳びあがり、だれもが
かけたすんだ。すてきな季節になるぞ。
彼は野にむかって最後に指を鳴らした。
ドアがバタンと開く。ひとびとが出てくる。……年の夏が
はじまったのだ。

みなさんの夏のカレンダーにはどんな計画が記されているのでしょうか。
ことによると例年のような旅行や海水浴やビアガーデン……に
出かけられないとしても、ここそこにわくわくのなつが待っていること
でしょう。

たくさんの励ましの言葉やたくさんのご協力をいただき1学期を終える
ことができました。
どうぞよい夏をお過ごし下さい。 園長 介光 泰雄
